

【ショートレター】

多面的・総合的な評価に関する高校の取り組みと教科毎の評価の観点†

－3 県の高校教員に対する調査結果の報告－

宮下 伊吉*

三重大学アドミッションセンター*

2017 年 7 月 13 日, 文部科学省より高大接続改革および大学入学者選抜改革の実施方針が公表され, 高校生の学力の 3 要素 (「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」) を多面的・総合的に評価する大学の個別選抜方法の検討が本格化している. 同時期に, 三重大学アドミッションセンター入試情報・調査研究部門では, 個別選抜方法の検討にあたり, 高校の多面的・総合的な評価にもとづく指導・授業改善の取り組みや教科毎の評価の観点等について調査を行った. その結果, 高校における多様な取り組み状況を確認した. 本稿は, その調査報告である.

キーワード: 高大接続, 学力の 3 要素, 多面的・総合的な評価, 評価の観点

1. はじめに

本稿では, 高校現場の授業改善の取り組みや教科毎の評価の観点と, 2020 (平成 32) 年度実施予定の大学の新しい個別選抜方法に向けた高校現場の意見を調査した. その結果, 高校における多様な取り組み状況等を確認することができたので報告する.

2. 調査概要

2.1. 調査期間・調査方法・調査対象・有効回答数

調査の期間・方法・対象・有効回答数を以下に示す.

調査期間 2017 年 7～8 月 (8 月 9 日締分まで集計)
調査方法 郵送法による質問紙調査 (記名式)
調査対象 本学に進学実績のある三重県・愛知県・岐阜県の高等学校 163 校

貴校での多面的・総合的な評価にもとづく指導・授業改善の取り組みについてお聞かせください。

学校名【 】 高等学校【 】 ※裏面にもご回答をお願いします。

記入例
良 悪 悪
1 2 3 4 5

Q1 貴校での多面的・総合的な評価にもとづく指導や授業改善の取り組みについて, a. ～ e. の中からあてはまるもの一つを選び, 右のように記入してください。

a. 学校全体で取り組んでいる b. 学年単位で取り組んでいる c. 教科単位で取り組んでいる
d. 学年単位, 教科単位ではなく, 教員が個別に取り組んでいる e. 該当なし

Q2 貴校での多面的・総合的な評価にもとづく指導や授業改善の内容について, 下記 a. ～ w. の中からあてはまるものすべてを選び, 下記に記入してください。v. その他は()内に具体的に記入してください。

a. 学習到達目標の設定 b. 学習到達目標の生徒への開示 c. 課題分析 d. 課題毎の評価基準の作成
e. 生徒の関与で評価基準作成 f. パフォーマンス課題の設定 g. ルーブリックによる評価基準作成 h. 課題探究型の学習
i. 主体的・協働的な学習 (アクティブラーニング型) j. 授業の公開 k. パフォーマンス評価 (ルーブリックによる) l. プロセス評価
m. ポートフォリオ評価 n. 自己評価 o. 生徒同士による相互評価 p. 即時フィードバック q. リフレクション r. 校内での事例共有
s. 他の高校との共同研究 t. 大学との連携 u. 県教育委員会・教育センターの支援による研究 v. キャンパス教育
w. その他 ()

Q3 貴校での教科毎の評価の観点について下記 a. ～ y. の中から重視すべき上位 3 つを選び【 】欄に記入の上, 選択理由を()内に明記ください。

国 語 1 位【 】 2 位【 】 3 位【 】
()

数 学 1 位【 】 2 位【 】 3 位【 】
()

英 語 1 位【 】 2 位【 】 3 位【 】
()

理 科 1 位【 】 2 位【 】 3 位【 】
()

地歴公民 1 位【 】 2 位【 】 3 位【 】
()

探究の時間 1 位【 】 2 位【 】 3 位【 】
()

(評価の観点) a. 高校で修得すべき基本的技術 b. 高校で修得すべき基礎知識 c. 幅広い教養 d. 読解力
e. 問題解決力 f. 情報活用力 g. 科学的・論理的な思考力 h. 多面的思考力 i. 批判的思考力 j. 創造的思考力
k. 課題探究力 l. 対話力 m. 討論力 n. 交渉力 o. 発表・伝達する力 p. 文章表現力 q. 主体的な学習意欲
r. 探究心 s. 社会への関心 t. 指導力 u. 協調性 v. 倫理観 w. 他者への共感 x. 他者との協働性 y. 自主性

図 1 アンケート調査項目 (Q1～Q3)

三重大学の個別選抜方法 (個別学力試験等) についてご意見をお聞かせください。

Q4 D. 平成 32 年度に実施予定の三重大学の新しい個別選抜方法に向けて, 検討が必要と思われる項目について, 下記 a. ～ z. の中からあてはまるものすべてを右のように記入ください。z. その他は()内に具体的に記入してください。

a. 個別選抜 (一般入試) の時期 b. 個別選抜 (AO) の時期 c. 個別選抜 (推薦) の時期
d. 個別選抜 (一般入試) の分離分割 (前期日程・後期日程) e. 個別選抜 (一般入試) の入試科目
f. 個別選抜 (一般入試) における記述問題 g. 個別選抜 (一般入試・AO・推薦) の定員比率
h. 個別選抜での英語の外部の資格・検定試験の活用 i. 地域枠 j. 小論文 k. 実技 l. 面接
m. 個別選抜 (一般入試・AO・推薦) での「大学入学共通テスト」の活用 n. 調査書 o. 推薦書
p. 志望理由書 q. 学修計画書 r. 活動報告書 (高校での活動履歴やボランティアなど多様な活動)
s. エッセイ t. ディベート u. 集団討論 v. プレゼンテーション w. スクーリング (模擬講義等)
x. 入学前教育 y. 入学者選抜要項の入学者選抜方針 (アドミッションポリシー)
z. その他 ()

Q5 上記 Q4 の検討が必要と思われる理由についてお聞かせください。

Q6 従来の三重大学の個別選抜方法 (一般入試) の出題内容で改善すべき点 (出題範囲・問題量・難易度・解答形式等) があれば, 該当する学部 (人文学部・教育学部・医学部・工学部・生物資源学部) および教科・科目 (国語・数学・物理・化学・生物・英語・小論文) と選抜方式 (前期日程・後期日程) を明記の上, 具体的に記入してください。

回答者) 学校名 ↓ 役職名 ↓ 氏名 ↓
TEL FAX E-mail

* 回答内容は, すべて統計的に処理し, 学校名や回答者が特定されることはありません。
* 集計結果は, 「高大接続シンポジウム」「高大合同研究会」及び三重大学の個別選抜方法等の検討や高大接続等に関連する今後の調査研究活動に使用します。

図 2 アンケート調査項目 (Q4～Q6)

表1 多面的・総合的な評価にもとづいた指導や授業改善の取り組み体制（校数, %）

取り組み体制	全体	三重県	愛知県	岐阜県
a 学校全体で取り組んでいる	35 50.0%	16 55.2%	11 37.9%	8 66.7%
b 学年単位で取り組んでいる	1 1.4%	1 3.4%	-	-
c 教科単位で取り組んでいる	15 21.4%	3 10.3%	11 37.9%	1 8.3%
d 学年単位、教科単位ではなく教員が個別に取り組んでいる	15 21.4%	6 20.7%	7 24.1%	2 16.7%
e 該当なし	4 5.7%	3 10.3%	-	1 8.3%
計	70 100.0%	29 100.0%	29 100.0%	12 100.0%

有効回答数 70 校（配布高校数 163 校 回収率 42.9%）
 三重県 29 校回答（回収率 59.2%）・愛知県 29 校回答（回収率 31.2%）・岐阜県 12 校回答（回収率 57.2%）

2.2. 調査項目

調査項目は、6 問で、そのうち最初の 1 問目から 3 問目までが、高等学校における多面的・総合的な評価に関する取り組み体制・取り組み内容・教科毎の評価の観点に関する項目であり、4 問目から 6 問目が本学の個別選抜方法に関する項目である。（図 1 図 2 参照）。

3. 調査結果と考察

3.1. 調査項目 Q1 多面的・総合的な評価にもとづいた指導や授業改善の取り組み体制

調査項目 Q1 では、高校における多面的・総合的な評価にもとづいた指導・授業改善の取り組み体制について、あてはまるもの一つを選択する方法で回答してもらった。その結果、全体で最も多かったのは、「a. 学校全体で取り組んでいる」（35 校、50.0%）であった。（表 1 参照）

表2 多面的・総合的な評価にもとづいた指導や授業改善の取り組み内容（複数選択）（校）

取り組み内容	全体
a 学習到達目標の設定	40
b 学習到達目標の生徒への開示	27
c 課題分析	21
d 課題毎の評価基準の作成	16
e 生徒の関与で評価基準作成	1
f パフォーマンス課題の設定	8
g ルーブリックによる評価基準作成	14
h 課題探究型の学習	28
i 主体的・協働的な学習（アクティブラーニング型）	49
j 授業の公開	46
k パフォーマンス評価（ルーブリックによる）	8
l プロセス評価	1
m ポートフォリオ評価	5
n 自己評価	26
o 生徒同士による相互評価	15
p 即時フィードバック	1
q リフレクション	4
r 校内での事例共有	20
s 他の高校との共同研究	11
t 大学との連携	25
u 県教育委員会・教育センターの支援による研究	12
v キャリア教育	41
w その他	2

3.2. 調査項目 Q2 多面的・総合的な評価にもとづいた指導や授業改善の取り組み内容

調査項目 Q2 では、高校の多面的・総合的な評価にもとづいた指導・授業改善の取り組み内容について、その他を含む 23 項目からあてはまるものすべてを選択してもらった。その結果、70 校全体で実施校数が多い（40 校以上）項目は、「i. 主体的・協働的な学習」（49 校）、「授業の公開」（46 校）、「キャリア教育」（41 校）、「学習到達目標の設定」（40 校）であった。（表 2 参照）

本項目 Q2 では、高校の多様な取り組み状況をいくつかのカテゴリーに分類できるのではないかと考え、調査結果の分析を試みた。分析方法は、データタイプが目的変数を持たないカテゴリーであるため、数量化 3 類による分析方法を用いることにした。その結果、パフォーマンス課題と共同研究・研究支援の軸、課題分析と参加の軸の 2 軸でカテゴリースコアの点グラフを作成した。（図 3 参照）図 3 のグラフから、a b の学習到達目標設定、c d m の課題分析、f g k のパフォーマンス課題、h t v の課題探究型学習および大学との連携とキャリア教育、i j r の主体的・協働的な学習と授業の公開と校内事例共有、o n の生徒による相互評価と自己評価、s u の他校との共同研究や県教委による研究の 7 つのカテゴリーに分類できた。

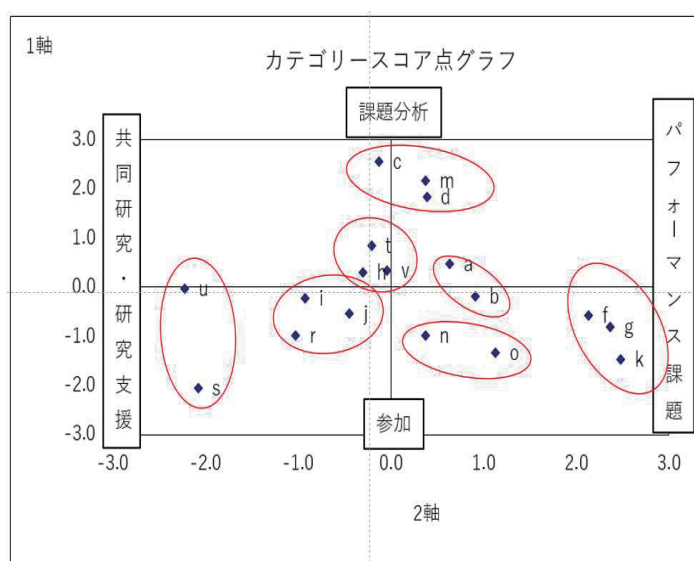


図3 高校の多様な取り組み状況のカテゴリースコア点グラフ

表3 教科毎に重視する評価の観点（上位3つを選択，1位3点，2位2点，3位1点で集計）（点）

評価の観点	国語	数学	英語	理科	地歴公民	探究の時間	点数合計	全体累計	探究の時間累計
a 高校で修得すべき基本的技能	34	47	59	33	25	3	201	897	44.0%
b 高校で修得すべき基礎知識	112	104	122	131	142	5	616		
c 幅広い教養	9	6	9	10		6	80		
d 読解力	108	11	56	10	17	6	208		
e 問題解決力	3	49	4	18	4	17	95	944	46.3%
f 情報活用力	0	3	0	3	16	4	26		
g 科学的・論理的な思考力	10	83	9	103	11	27	243		
h 多面的思考力	5	25	4	10	42	7	93		
i 批判的思考力	8	0	0	4	12	2	26		
j 創造的思考力	1	5	0	5	0	2	13		
k 課題探究力	4	6	2	14	13	40	79		
l 対話力	3	0	21	0	1	3	28		
m 討論力	1	0	2	0	1	0	4		
n 交渉力	0	1	0	1	0	0	2		
o 発表・伝達する力	10	1	31	0	1	24	67	944	46.3%
p 文章表現力	38	5	16	0	0	1	60		
q 主体的な学習意欲	11	17	15	12	13	16	84		
r 探究心	0	0	1	15	2	28	46		
s 社会への関心	0	0	2	2	32	12	48		
t 指導力	0	0	0	0	0	3	3		
u 協調性	0	0	0	0	0	2	2		
v 倫理観	0	0	0	0	1	0	1		
w 他者への共感	0	0	0	0	0	0	0		
x 他者との協働性	0	0	0	2	1	11	14		
y 自主性	1	0	0	0	0	0	1	199	9.8%

※ a～c, d～p, q～y の得点累計を点数の総合計値（全体累計は2040点，探究の時間は219点）で除した比率

3.3. 調査項目 Q3 教科毎の評価の観点

調査項目 Q3 では，教科毎に重視すべき評価の観点を25項目から上位3つを選択・順位付け（1～3位）の上，選択理由を記載してもらった（自由記述）。順位付けの結果は，1位3点，2位2点，3位1点で得点化し，集計した。その結果，a～c の知識・技能に関する項目の得点累計は897点（44.0%），d～p の思考力・判断力・表現力に関する項目の得点累計は944点（46.3%），q～y の主体性等の態度に関する項目の得点累計は199（9.8%）であった。国語，数学，英語，理科，地歴公民の各教科に共通して最も点数が高かった評価の観点は，「b. 高校で修得すべき基礎知識」であった（616点）。二番目に高かった評価の観点は，「g. 科学的・論理的な思考力」（243点）で，数学，理科で点数が高かった。三番目に点数が高かった評価の観点は，「d. 読解力」（208点）で，国語，英語で点数が高かった。（表3参照）

選択理由（自由記述回答）をみると，「b. 高校で修得すべき基礎知識」では，「基礎知識の修得の上に思考力・発展的学習があるため」「大学入試に対応するため」という回答が探究の時間以外のどの教科でも見受けられた。

「g. 科学的・論理的な思考力」については，数学では「科学的・論理的な思考力は数学の学力において最も大切であるため」，理科では「基礎知識の修得の上に論理的な思考力があるため」が選択理由として回答があった。「d. 読解力」については，国語では「文章表現，コミュニケーション

の基礎は読解力であるため」との選択理由の回答があり，英語では「正確な読解力と伝達力に加えて，コミュニケーションが必要であるから」という選択理由の回答があった。ただし，英語については，4位に「o. 発表・伝達する力」，5位に「l. 対話力」が選択されており，選択理由として，「読解力より今後，会話力・実践力が重視されてくるから」という回答も見られた。地歴公民は，2位に「h. 多面的思考力」，3位に「c. 幅広い教養」が選択されている。探究の時間は，教科としては総合的な学習の時間にあたるが，その指導内容が多方面にわたるため，新学習指導要領の方向性に沿った探究的な学習の取り組みとして設定した。その結果，重視する評価の観点の1位は「k. 課題探究力」，2位は「r. 探究心」，3位は「g. 科学的・論理的な思考力」であった。選択理由は，「各自が課題を設定し，問題意識を持って自ら考える力がこれから大切であるため」「探究心があって，主体的な学習意欲や問題意識，問題解決力が生まれるため」であった。

3.4. 調査項目 Q4 個別選抜方法で検討すべき項目

調査項目 Q4 では，2020（平成32）年度実施（平成33年度入試）予定の中学の新しい個別選抜方法で検討すべき項目を複数選択で回答してもらった。その結果を調査項目 Q2 で分析した図3 高校の多様な取り組み状況のカテゴリースコア点グラフで分類した7つのカテゴリー毎に調べた。その結果，どのカテゴリーにおいても回答校数が

表4 高校の取り組み状況別からみた三重大大学の新しい個別選抜方法で検討すべき項目（複数選択）（校数）

	検討が必要と思われる項目	a,b	c,d,m	f,g,k	h,t,v	i,j,r	o,n	s,u
a	個別選抜（一般入試）の時期	3	2	2	3	5	0	0
b	個別選抜（AO）の時期	11	7	4	10	13	5	1
c	個別選抜（推薦）の時期	9	5	3	8	12	4	1
d	個別選抜（一般入試）の分離分割（前期日程・後期日程）	5	3	2	3	8	1	2
e	個別選抜（一般入試）の入試科目	11	6	8	14	22	6	4
f	個別選抜（一般入試）における記述問題	10	6	5	8	16	1	3
g	個別選抜（一般入試・AO・推薦）の定員比率	13	7	6	11	16	7	2
h	個別選抜での英語の外部の資格・検定試験の活用	14	7	5	14	20	6	3
i	地域枠	5	2	2	7	5	3	1
j	小論文	3	2	2	3	3	3	0
k	実技	0	0	0	0	0	0	0
l	面接	2	2	1	3	2	4	0
m	個別選抜での大学入学共通テストの活用	16	8	8	14	23	10	7
n	調査書	1	1	0	0	2	0	0
o	推薦書	3	2	1	3	3	2	0
p	志望理由書	4	4	3	3	3	3	1
q	学修計画書	1	1	1	1	2	0	0
r	活動報告書（高校での活動履歴やボランティアなど多様な活動）	6	4	2	4	7	3	2
s	エッセイ	2	1	1	2	2	2	0
t	ディベート	3	1	0	3	3	2	1
u	集団討論	3	1	0	3	3	2	1
v	プレゼンテーション	4	2	2	3	3	3	0
w	スクーリング（模擬講義等）	3	2	2	3	3	2	1
x	入学前教育	2	2	2	2	4	1	2
y	入学者選抜要項の入学者選抜方針（アドミッションポリシー）	5	1	1	3	4	3	0
z	その他	2	0	1	3	4	4	1

多い項目は、「m. 個別選抜での大学入学共通テストの活用」であった。特に h t v の課題探究型学習および大学との連携とキャリア教育のカテゴリーにおいて、本学の個別選抜（「m. 個別選抜での大学入学共通テストの活用」のほかに「h. 個別選抜での英語の外部の資格・検定試験の活用」「個別選抜（一般入試）の入試科目」）について検討すべきとの回答が多い傾向がみられた。

3.5. 調査項目 Q5 Q4 の選択理由

調査項目 Q5 では、Q4 の回答の選択理由を自由記述で回答してもらった（55 校）。最も多かったものは、英語の認定試験の活用に関する内容であった（10 校）。次いで多かったのは、AO・推薦の実施時期等に関する内容であった（7 校）。全体的には本学の方針の明示を求める声が多かった。

3.6. 調査項目 Q6 従来の個別選抜方法の改善点

調査項目 Q6 では、本学の従来の個別選抜方法の改善点を自由記述で回答いただいた（24 校）。多かった内容は、「個別試験の教科・科目数、選抜方法」（7 校）、次に「従来の方法の維持」「出題内容・範囲」（各 6 校）であった。

4. まとめ

今回の調査により、高校における多様な取り組み状況等を確認することができた。調査項目 Q1 では学校全体での取り組みが半数を占め、調査項目 Q2 で試みた数量化 3

類の分析では高校の取り組み状況を 7 つに分類できた。調査項目 Q3 の教科毎の評価の観点では、探究の時間とそれ以外の教科で重視度の相違を確認できた。また、調査項目 Q4 の本学の個別選抜方法については表 4 で高校の取り組み状況別から検討すべき項目を明示した。ただし、いずれも十分な分析および明示ができていないといえなため、引き続きさらなる調査結果の分析をすすめていく。

参考文献

- 文部科学省（2017）『高大接続改革の実施方針等の策定について』（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/1388131.htm）（2017 年 10 月 24 日）
- ベネッセ教育総合研究所 高大接続に関する調査（<http://berd.benesse.jp/koutou/research/detail.php?id=4338>）（2017 年 10 月 24 日）
- 小山勝樹（2017）「高校教員対象に実施した多面的・総合的評価に関するアンケート調査結果について」『平成 29 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第 12 回）研究発表予稿集』31-36.

†Ikichi Miyashita*:Research about the holistic evaluation and implementation : Investigation report of a high school in 3 prefecture
*Admission Center, Mie University 1577 Kurimamachiyachou Tsushi, Mie, 514-8507, Japan

（2017.10.30 受付，2018.1.16 受理）